

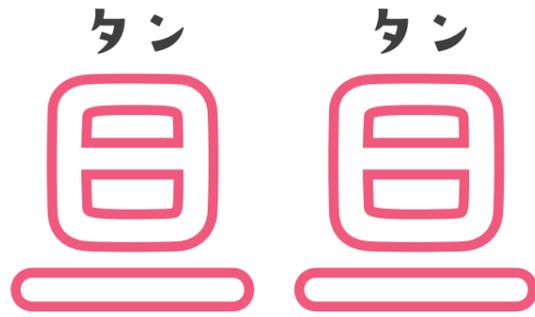


ありがとうタンタン
記念誌

oijoo
K O B E

ジャイアントパンダの

タンタンは1995年の阪神淡路大震災で傷ついたり子どもたちや復興に取り組む人々を励ましたいと、2000年7月16日に中国から神戸にやって来ました。しかし、2021年に心臓の病気が発見され、2024年3月31日に28歳で生涯を終えました。訪れた多くの人や子どもたちを元気づけ皆に愛されたタンタン。その生涯、そしてタンタンが教えてくれたことを振り返ります。



ジャイアントパンダの基本DATA

分類: 食肉目/クマ科
 英名: Giant Panda
 学名: *Ailuropoda melanoleuca*
 食性: 竹を主食とする
 IUCNレッドリスト: VU (危急)

ジャイアントパンダの住むところ

野生のジャイアントパンダは、中国の四川省・甘粛省・陝西省の標高1,200m~3,400mの竹の生えた森林というごく限られた地域にのみ生息しています。



愛称の由来

太陽が水平線から昇るところを表す「旦」が、おめでたい字であることから「旦旦」に。中国名では「爽爽(ソウソウ)」と呼ばれていました。

性格

おっとりしていてマイペース、
 だけど神経質なところも。
 基本的には大人しく、
 のんびり過ごすことを好みます。

プロフィール

性別: メス
 誕生日: 1995年9月16日
 出生地: 中国四川省
 臥龍保護研究センター

チャームポイント

なんといっても短い四肢と、
 まんまるな体が特徴的。
 他のパンダと比べて顔のパーツが
 小さめで、鼻も短く、
 丸い顔をしています。

王子動物園とジャイアントパンダ

タンタンのあゆみ

1973	1981	1992	1995	2000	2002	2008	2010	2015	2020	2021	2024
友好都市 神戸市と天津市で日中間で初の友好都市締結 1976年から天津市動物園との動物交流を開始	神戸ポートアイランド博覧会「ポートピア'81」 天津市動物園から借り受けたジャイアントパンダを展示	キンシコウ日中共同飼育繁殖研究 中国以外で世界初の繁殖に成功し里帰りさせるなど成果を挙げ、のちのジャイアントパンダ共同研究につながる	阪神淡路大震災 1月17日 発生 タンタン出生 9月16日 臥龍保護研究センターにて	初代コウコウとタンタンが来園 7月16日 ジャイアントパンダ日中共同飼育繁殖研究のため来園	二代目コウコウが来園 初代コウコウが性成熟不全のため帰国	タンタン出産 8月26日 人工授精により妊娠・初出産するも3日後に赤ちゃんが死亡	二代目コウコウ死亡 9月9日 14歳で死亡	タンタン20歳の誕生日 イベントでは多数の来園者に祝福される	タンタン返還決定 「タンタンありがとう」キャンペーンを実施 その後、新型コロナウイルス感染拡大により延期	タンタン心臓疾患が判明 日中の専門家が共同で治療にあたる	タンタン死亡 3月31日 28歳で死亡
 王子から天津へ向かうキリン	 「サイサイ」(オス)と「ロンロン」(メス)	 キンシコウの母子	 生後間もないタンタン	 初代コウコウ	 二代目コウコウ	 タンタンと赤ちゃん	 献花式	 誕生日イベント	 「タンタンありがとう」キャンペーン	 治療の様子	 追悼式

来園前のタンタンの様子

中国ジャイアントパンダ保護研究センター 魏 栄平センター長に、タンタンの幼少期の様子を教えてもらいました。

タンタンは人工繁殖により、四川省臥龍にある中国ジャイアントパンダ保護研究センターで誕生しました。生まれたばかりのころは、体重100gほどで他の赤ちゃんパンダと大きさは変わりませんが、大きな声で元気に鳴くのが印象的でした。タンタンが無事に生まれてくれたことを祝い、爽やかな嬉しい気持ちを表すため、「爽爽」という名前をつけました。



タンタン
初めての身体測定

母親のドンドンに育てられ、体重がぐんぐん増えて順調に成長し、生まれて10日目には232gに。1か月の頃には1.29kg、6か月で13.79kgと比較的他の赤ちゃんパンダより早いスピードで成長しました。



母親ドンドンとタンタン

半年ほど経つと、母親から離れて他の赤ちゃんパンダたちと一緒に過ごすことになりました。タンタンは、元気にあふれ、可愛くて、とてもきれいなパンダでした。



他の赤ちゃんパンダたちと

タンタンは友好と平和の使者として、神戸の人々、日本の人々に幸せと喜びをもたらしました。だから、タンタンはパンダの中のスターといっても過言ではないでしょう。



魏センター長が幼いタンタンに人工ミルクを与えている様子

飼育員に聞いた 来園当初のタンタンの様子

パンダの来園を待ちわびていた王子動物園のもとに、2000年7月16日20時24分、タンタンは初代コウコウと共に到着。その後、パンダ館の寝室に入ったタンタンは、すぐに少量の竹を食べましたが、初めての新しい環境に興奮したのか歩き回り始めました。しかし寝室に入ってから1時間35分後には、15分ほど眠ってくれ、飼育員一同ほっとひと安心しました。翌日には少し落ち着きはじめ、採餌量も少しずつ増えていきました。



若い頃のタンタンは遊びが好きでした。木登りやチェーンで吊ったタイヤに乗ったり、タイヤを転がしたりしていました。得意なのはでんぐり返りで連続3回転ぐらい簡単にやっていました。黒白模様なのでサッカーボールが転がっているようでした。帰ってきたらいつもドロドロなのでホースで洗ってあげたいなあと思っていました。興奮するといつもプールに飛び込んでいました。

ブイやドンゴロス、小さなタイヤ、竹筒、丸太などの遊具を与えていました。特にブイが大好きで、モートの下やプールの中、寝台の上など色んなところで遊んだ形跡が転がっていました。



タンタンのふるさと 中国ジャイアントパンダ 保護研究センター

中国ジャイアントパンダ保護研究センターは、1983年に四川省臥龍の自然保護区内に設置された保護研究機関をもとに、2013年に設立され、4つの基地から構成されています。

4つの基地と役割



臥龍神樹坪基地
飼育・繁殖、野生復帰など



臥龍核桃坪基地
飼育・繁殖、野生復帰など



雅安基地
飼育個体数群の管理など



都江堰基地
疾病の治療・予防、研究、
高齢、病弱の個体の介護など

タンタンはこの前身の基地で生まれました

タンタンはここに帰る予定でした

ジャイアントパンダを守るための取り組み

センターでは、飼育下繁殖をはじめ、生態の研究、疾病予防、野生の傷病個体の救護、野生復帰、飼育個体の野生下繁殖、国内外の交流、教育普及など、ジャイアントパンダを守るための活動に取り組んでいます。

さらに、政府や保全団体が連携し、開発のため縮小、分断した生息地をジャイアントパンダが行き来できるように、周辺地域の人々の理解を得ながら各保護区を森林でつなぐ取り組みをしています。



繁殖



人工哺育

自然環境下における
親子での訓練



野生復帰



高度獣医療の提供

国内外における協力と
交流の推進



野生化訓練



竹のふるさと 淡河町より

王子動物園にジャイアントパンダが来園して以来、神戸市北区淡河町より日々新鮮な竹が届けられました。タンタンの健康を支えた、主食である「竹」について紹介します。

なぜ淡河の竹がパンダの餌に？

王子動物園のパンダに淡河の竹が届けられるようになったのは、1981年の神戸ポートピア博覧会「ポートピア'81」がきっかけでした。博覧会に展示されたジャイアントパンダ「サイサイ」と「ロンロン」に、新鮮な竹を安定供給できる場所として淡河が選ばれたのです。

その後、2000年に来園したコウコウとタンタンにも、淡河町は試行錯誤しながら、当園の飼育員と協力して品質の良い竹を選び、供給の仕組みを整えていきました。



タンタンの好みに応える竹選び

竹の採取

竹を切る作業は重労働です。特に年数が経った竹は大きく、運搬も一苦勞でした。タンタンはコウコウよりも竹にこだわりがあり、年数が経った目印である黄色い竹を好んで食べるため、採取の際は色を見て搬入する竹を選定していました。また、排気ガスや農薬の影響がないかを確認し、安全な竹だけを提供するよう努めていました。



竹の保管

「ポートピア'81」で得た経験から、竹の鮮度を保つために、温度管理などを重要視し、淡河では採取した竹を冷蔵保管していました。さらに搬入後も新鮮な状態を維持するため、パンダ館では温度や湿度を適切に保ちながら管理していました。



いつも美味しく食べるための工夫

竹は一度に大量に与えるのではなく、小分けにして複数回に分けることで、タンタンがよく動き、食欲を維持できるように工夫しました。最終的には7種類の竹の中から3~4種類を選び、1日45kgを与えていました。

淡河で採れる7種類の竹

モウソウチク、ハチク、マダケ、ヤダケ、トウチク、メダケ、タケノコ

竹の採餌量が減る時期は、モウソウチクや園内に自生するホテイチクのタケノコを積極的に提供しました。秋には淡河から届けられたシホウチクのタケノコも与えることができ、一年を通じて長い期間食べてもらうことができました。



モウソウチクのタケノコ



淡河よりメッセージ

美味しく食べている姿や、綺麗に食べきってくれ竹ぼうきのようにしているのを見ると、とてもうれしい気持ちになりました。特に冬場はよく食べてくれたことを思い出します。淡河の竹は美味しく食べてくれていただろうなと自信を持って言えます。



西浦さん



岩野さん

タンタンの健康を支えるために

タンタンが健康に過ごせるよう、中国で行われていたハズバンドリートレーニング（動物の負担を減らしながら、健康管理に必要な行動を自主的に取れるようにするための訓練）を、2011年以降、当園でも導入し、毎日、飼育員が実施していました。また、定期的に獣医師も立ち会い、トレーニングを活用した健康診断を実施していました。さらに、タンタンが高齢になってくると、病気の早期発見のためのトレーニングを積極的に導入し、健康管理に努めました。

ハズバンドリートレーニング

ターゲット



棒などを目印に動きを誘導

ふせ



うつ伏せの姿勢（心電図検査等のため）

ダウン



仰向けの姿勢（直腸温測定等のため）

ステイ



特定の姿勢を一定の時間維持

グリップ



前腕をケージから出す姿勢（聴診やエコー検査のため）

開口



口を開ける姿勢（口腔内検査のため）

健康診断

聴診



心音・肺音を確認

血液検査



全身状態を確認（臓器の機能、栄養状態、感染状況等）

目の状態確認



目の炎症等を確認
目の周囲の消毒や点眼等も実施

2017年に発症した真菌性角膜炎も、このトレーニングのおかげで無事に治癒しました。

心臓疾患への取り組み

定期的な健康診断を続けていたところ、2021年、心臓の聴診の際に、不整脈と頻脈があることが分かりました。中国ジャイアントパンダ保護研究センター及び大阪公立大学獣医学部の専門家たちに協力いただき、心電図などの詳しい検査をしたところ、心臓疾患であることが判明しました。

治療のために、ハズバンドリートレーニングを活用した新たな検査や処置方法を確立し、数種類の薬を飲んでもらうた

めに工夫をこらしました。また、タンタンの症状に合わせて飼育環境の工夫などにも取り組みました。

早くからハズバンドリートレーニングに取り組んでいたおかげで、疾患を早期に発見でき、専門家たちと協力しながら積極的な治療に努めることができました。その治療の取り組みの一部をご紹介します。

心臓疾患を詳しく調べるための検査

心電図検査



心臓の状態（電気の流れ）を確認

エコー検査



心臓の状態（形の変化や血流）や、体液の溜まり具合などを確認

レントゲン検査



心臓の大きさや肺の状態を確認

血圧測定



心臓が血液を送り出す力を確認



中国ジャイアントパンダ保護研究センター・大阪公立大学獣医学部の専門家たちと

薬を飲んでもらう工夫

食
べる



隠す



冷やす

投薬のため、リンゴやブドウに穴を開けて薬を隠したり、サトウキビに薬を入れて凍らせたり、薬と果物をミキサーにかけて凍らせたりする方法を試みましたが、2～10日程度で食べなくなってしまいました。

飲
む



ジュースに混ぜる

まず、初めて飲むジュースの味に慣れてもらい、慣れた頃にすり潰した薬などを混ぜました。最初は匂いに少し警戒していましたがそのうち気にせずゴクゴク飲み始めました。

この方法で様々な薬やサプリメントを安定的に長期間、ストレスを感じることなく与えることが出来ました。

飼育環境の工夫

トレーニングケージにバーを追加



筋力が低下しても、トレーニングの姿勢を維持しやすくする。

目隠しシートの設置



できるだけストレスを減らし、落ち着いた環境にする。

寝室の酸素室化



呼吸をしやすくし、心臓の負担を軽減させる。

緩やかな傾斜の階段の設置



筋力が低下しても、お気に入りの場所に移動しやすくする。

心臓疾患への取り組み

定期的な健康診断を続けていたところ、2021年、心臓の聴診の際に、不整脈と頻脈があることが分かりました。中国ジャイアントパンダ保護研究センター及び大阪公立大学獣医学部の専門家たちに協力いただき、心電図などの詳しい検査をしたところ、心臓疾患であることが判明しました。

治療のために、ハズバンドリートレーニングを活用した新たな検査や処置方法を確立し、数種類の薬を飲んでもらうた

めに工夫をこらしました。また、タンタンの症状に合わせて飼育環境の工夫などにも取り組みました。

早くからハズバンドリートレーニングに取り組んでいたおかげで、疾患を早期に発見でき、専門家たちと協力しながら積極的な治療に努めることができました。その治療の取り組みの一部をご紹介します。

心臓疾患を詳しく調べるための検査

心電図検査



心臓の状態（電気の流れ）を確認

エコー検査



心臓の状態（形の変化や血流）や、体液の溜まり具合などを確認

レントゲン検査



心臓の大きさや肺の状態を確認

血圧測定



心臓が血液を送り出す力を確認



中国ジャイアントパンダ保護研究センター・大阪公立大学獣医学部の専門家たちと

薬を飲んでもらう工夫

食
べる



隠す



冷やす

投薬のため、リンゴやブドウに穴を開けて薬を隠したり、サトウキビに薬を入れて凍らせたり、薬と果物をミキサーにかけて凍らせたりする方法を試みましたが、2～10日程度で食べなくなってしまいました。

飲
む



ジュースに混ぜる

まず、初めて飲むジュースの味に慣れてもらい、慣れた頃にすり潰した薬などを混ぜました。最初は匂いに少し警戒していましたがそのうち気にせずゴクゴク飲み始めました。

この方法で様々な薬やサプリメントを安定的に長期間、ストレスを感じることなく与えることが出来ました。

飼育環境の工夫

トレーニングケージにバーを追加



筋力が低下しても、トレーニングの姿勢を維持しやすくする。

目隠しシートの設置



できるだけストレスを減らし、落ち着いた環境にする。

寝室の酸素室化



呼吸をしやすくし、心臓の負担を軽減させる。

緩やかな傾斜の階段の設置



筋力が低下しても、お気に入りの場所に移動しやすくする。

タンタンが教えてくれたこと

日中共同飼育繁殖研究の成果

2000年に日中共同飼育繁殖研究のためにジャイアントパンダを借り受けて以来、中国ジャイアントパンダ保護研究センターや日本国内の複数の大学など、日中の専門家と協力しながら、ジャイアントパンダの繁殖、飼育技術向上、生態解明のための調査研究に取り組みました。これまでに45件の研究成果を報告しています。以下にその一部をご紹介します。



研究成果の詳細は
当園HPをご覧ください。

繁殖をめざして

ジャイアントパンダの繁殖は難しく、発情は1年に1回で、そのうち排卵日とその前後の繁殖に適したタイミングは1〜3日しかありません。このタイミングを知るために、様々な研究を行いました。

1. 行動観察

展示場や寝室に複数のカメラを設置し、録画した映像から毎日24時間の記録を分析し、運動や採餌の時間、発情期に特有の行動を調査しました。

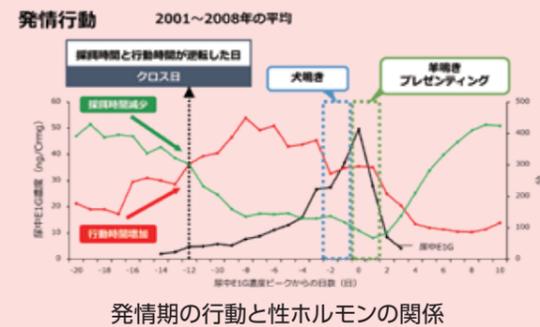


発情行動（マーキング）

2. 性ホルモン分析

尿中の性ホルモンの分析方法を開発し、発情期や妊娠期の性ホルモンの変動を調べました。
(共同研究：神戸大学、岡山大学 他)

これらに加え、膣細胞診などの研究を組み合わせ、排卵日のおおよその推測が可能となりました。



3. 人工授精

人工授精技術の研究にも合わせて取り組み、2007年と2008年の妊娠に至りました。
(共同研究：中国ジャイアントパンダ保護研究センター 他)



人工授精

4. 育児様行動の研究、発情の季節性の変化

尿中オキシトシンと偽妊娠期の育児様行動の関連、また妊娠期と偽妊娠期の尿中オキシトシンの動態の違いを調査しました。
(共同研究：岐阜大学、京都大学)

また高齢期まで性ホルモン分析を続け、発情の季節性の変化などを調査しました。
(共同研究：京都大学 他)



餌を舐める育児様行動

よりよい飼育や生態解明のために

飼育技術の向上やジャイアントパンダの生態についての知見を得るため、様々な研究に取り組みました。

1. 疾病治療に関する研究

高齢期を見据えてハズバンドリートレーニングを用いた健康管理を導入し、疾病の早期発見や新たな手法による治療に取り組みました。

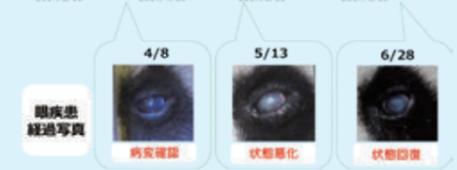
(共同研究：大阪公立大学、中国ジャイアントパンダ保護研究センター)



2. ストレスホルモン分析

尿中コルチゾール分析により、眼疾患の悪化と治癒時の身体的ストレスを評価しました。

(共同研究：京都大学)



眼疾患とストレスホルモン

3. 腸内細菌叢の解析

タンタンの腸内細菌叢をゲノム解析し、優占種や組成、多様性、代謝経路等について中国の個体(野生・飼育下)と比較しました。

(共同研究：北海道大学)



CAS凍結したタケノコ

4. タケノコの冷凍保存

タケノコの通年供給方法の検討のため、CAS (Cells Alive System) 凍結したタケノコの嗜好性を調査しました。

(共同研究：株式会社アビー、武庫川女子大学)

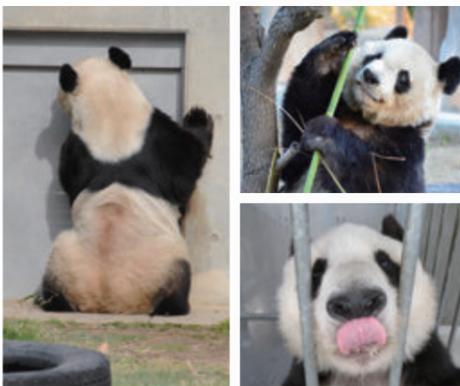
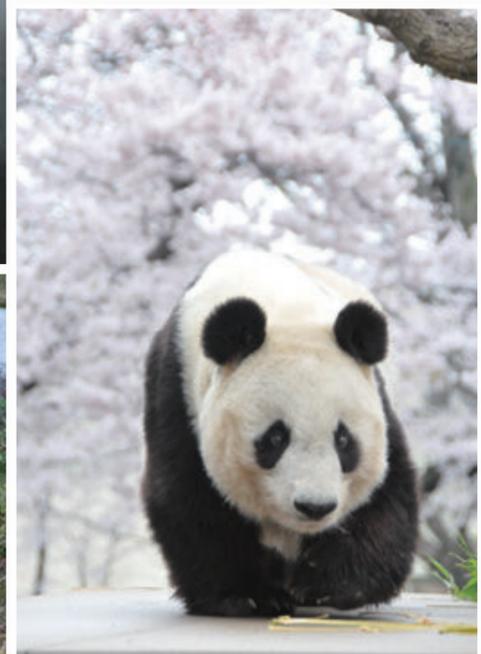
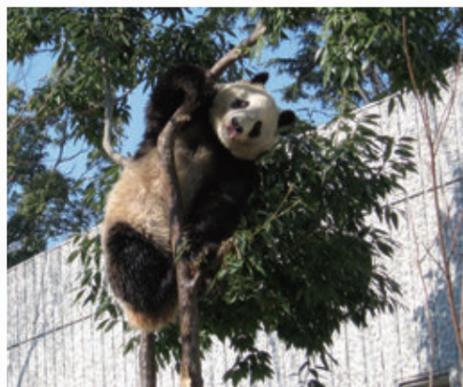
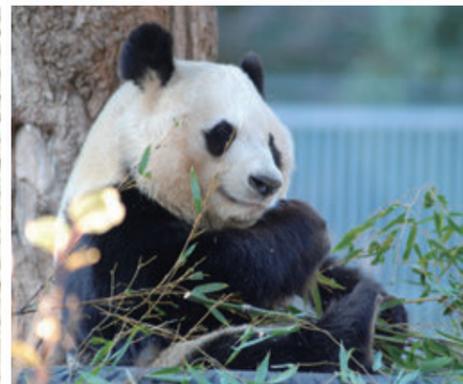
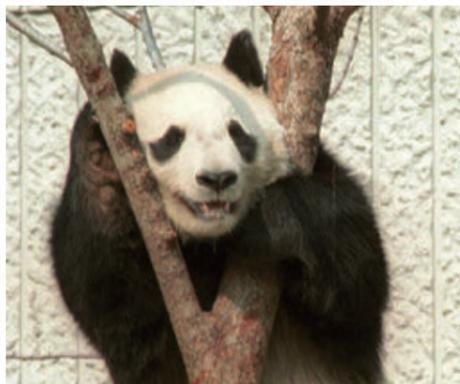
5. その他

ジャイアントパンダの利き手の調査や、拡張現実 (AR) を用いた学習支援の研究、人工知能 (AI) による行動解析など、多様な研究を実施しました。



ARによる学習支援

日中共同飼育繁殖研究を通じて、ジャイアントパンダの繁殖、飼育技術、治療、生態等に関するたくさんの知見が得られました。タンタンが教えてくれたことが、今後絶滅危惧種であるジャイアントパンダの保全や動物福祉の向上に役立てられることを願っています。



タンタンへ送るメッセージ

王子動物園の飼育員

飼育員 兼光 秀泰



パンダだからということではなく、どの動物の担当になっても、その動物が好きになるしかわいく感じます。具体的にどこがかわいく好きだったということはありません。自分の子を思う気持ちと同じで、タンタンの存在すべてがかわいく、好きでもありました。来園者の皆様にはずっとタンタンを見守っていただき、飼育スタッフまで応援していただき、ありがたく感じています。

飼育員 吉田 憲一



旅立ってから1年になるんで、すねのずいぶん前のことのように感じます。楽しんでますか？動物園に来る日はやはり思い出しますよ。今は他の動物たちと接するようになって、「タンタンは優しくとても賢い子だったなあ」とつくづく思います。賢すぎてズルすることもあったけど、よく言うことを聞いてくれましたね。未だに思いを持っている人が多く、とても愛されていたんだなあと感じます。みなさんもたまに「いいの、神戸にパンダがいたこと」を思い出してください。もちろん私も忘れませんが、まだまだ先ですが、また会いましょうね。

飼育員 坂本 健輔



2000年の7月16日に出会った瞬間から、「パンダってなんてかわいくのだろう」と思いました。特にタンタンは、ほかのパンダにない独特の魅力、かわいさがありました。来園当初は大変忙しく、プレッシャーや心配もありましたが、コウコウ、タンタンを見ているだけで優しい気持ちになれました。癒されながら仕事をさせていただきました。タンタンのことを想うとたくさん思い出がありますが、まず一番に運動場を駆け回る姿と、多くの方々の笑顔が思い浮かびます。本当に多くの方々に勇気や希望、笑顔を与えてくれ、愛されたタンタン。ありがとう。

飼育員 梅元 良次



16年担当させて頂き、数えきれないほどの思い出を作る事が出来ました。担当になった当初はジャイアントパンダを担当する重圧がある中、先輩達に教えてもらいながらタンタンに慣れてもらい、3日間と短い期間でしたが、赤ちゃんの出産から、育児の様子も見せてもらう事ができました。晩年は加齢性による心臓病が発症し、三年間大変な治療の中で懸命に生きるタンタンを近くで見ながら僕自身もとても励まされました。「本当にお疲れ様でした、よく頑張ったね」と言ってあげたいです。ずっとタンタンを応援してくれたみなさま、応援ありがとうございました。

大阪公立大学の専門獣医師

長谷川 貴史 教授(眼科)



このたびタンタンちゃんが虹の橋を渡られましたこと、心からお悔やみ申し上げます。お姫様とお付き合いは2017年の真菌性角膜炎の診断と治療の時からです。診察の時には、途中でうろつかれて眼を見る事ができず、投薬にはスタッフの方々の手を煩わせていましたが、視覚喪失のような大事には至りませんでした。一方で、徐々に悪化する心臓病との戦いに勝利することはできませんでした。複数の病魔と果敢に戦ってきたタンタンちゃんに彼女を支えてきたスタッフの方々に敬意を表したいと思います。きっと天国ではこれら病魔から解放されて、大好きなリンゴ、パドウ、おいしいタケノコを食べ、サトウキビジュースを好きなだけ飲んでいることでしょう。

島村 俊介 准教授(循環器科)



「パンダの不整脈を診てほしい」「パンダは愛らしく見えて、実は猛獣である」といったうわさを鵜呑みにしていた私をはじめに思ったのは、パンダに検査ができるのか？という疑問でした。後日、そんな私が目にしたのは、おちついて自ら検査を受けるパンダの姿でした。私の疑念は杞憂に終わり、日々収集された検査データは、タンタンの体調を知る重要な手掛かりであり続けました。日常の中で築き上げたタンタンと園との信頼関係が、3年以上の長きにわたる闘病生活において確かな支えとなっている様子は、日頃動物の診療に関わる私にも、動物との信頼関係の大切さを忘れてはいけないよと、タンタンが教えてくれているようでした。

古家 優 准教授(内科)



遠く中国からやってきて、23年以上の長きにわたり、温かい眼差しと、愛らしい仕草で私たちを癒し、微笑みを届けてくれる存在だったタンタン。みんなのスターだったと思います。でも、私が出会ったタンタンは、病と闘い、懸命に生きる姿でした。可愛いだけでなく、強さと勇気を教えてくれた存在でした。日々を生き抜くタンタンと、多くのスタッフの方々が一丸になって治療に取り組む姿は、一言では表せないほどの多くのチャレンジがあったと思います。言葉は話さなくてもお互いの信頼関係があってこそできたことだと尊敬の念に堪えません。どうか安らかに眠ってください。そして、これからもどこかで、私たちを見守ってくださいます。ありがとう、タンタン。

中国ジャイアントパンダ保護研究センターの専門家

獣医師 王 承東



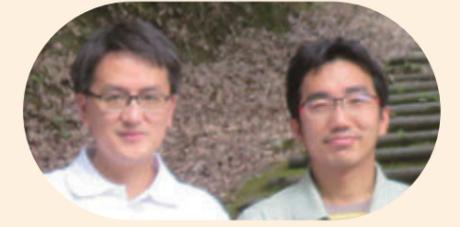
タンタン、二十年前に私が初めてあなたに出会った日のことは今でも鮮明に覚えています。それは桜が咲き誇るある春の日、たくさん的小学生たちが動物園に見学に来てました。あなたを見つけた子供たちは、驚きと好奇心に目を輝かせ、ワイワイ話をしながら柵にかじりついていました。そのはしゃぐ声に誘われるように、そそくさと寝転がっていたあなたはゆっくりと体を起こし、まんまるな体を揺らしました。すると子供たちからは大きな歓声が沸き起こり、中には絵筆を握ってあなたの愛らしい姿をスケッチし始める子もいました。その瞬間、あなたが首をかしげて子供たちの絵を見ていた、興味津々で無邪気な表情を、私は今でも忘れることはできません。再会した時のあなたは重い心臓病を患っていました。獣医師チームがずっとそばにいて、一瞬も目を離さずに見守っていました。毎日の健康検査であなたの弱った姿を見る度、胸がぎゅゅと締め付けられるようでした。私たちは毎日夜の調整を急に行い、小心翼翼あなたに服用させたものです。少しでも早く良くなってほしいと願いながら、あなたは私たちの元を旅立ってしまいましたが、あなたが残してくれた喜びと温もりは、これからもずっと私たちと共にあるでしょう。あのおかふかの手の温もりを、私は永遠に忘れません。皆さん、どうかタンタンのことを心に焼き付けて、彼女が我々に与えてくれたあの美しい思い出の日々を胸に抱き続けていきましょ。

獣医師 楊 海迪



タンタンへ：山と海を越える生命の光。親愛なるタンタンへ、あなたの人生は、希望に捧げられた叙事詩でした。臥龍から神戸へ、あなたは山と海を越え、その大きく温かな背中であんなに傷を縫い合わせ、その優しい眼差しで苦しみの氷を溶かしました。あなたと共に過ごした最後の時間の中で、最も胸が締め付けられたのは、あなたがすでに疲れ果てているのに、それでも最後の力を振り絞って治療に応えようとしたことでした。震える体でそっと私の手に寄り添い、まるで「諦めないで」と伝えてくれているかのようでした。治療の日々、あなたはいつも沈黙の中でその疲れを耐えていました。目を開けることすらできないほど弱っていても、呼びかけには耳をバクリと動かして応え、夜には小さく体を丸めながらも、私たちの手のひらにそっとすり寄り、すべての苦しみを無言の思いやりに変えていました。体が重くなくてもなお、あなたは窓辺へと歩み寄り、心に宿る竹林と咲き誇る前の桜をじっと見つめていました。そして最後の瞬間まで、かつて駆け回った庭を見つめ、「私は決して負けなかった」と言わんばかりの眼差しを向けていました。あなたと共に過ごした日々は、決して衰弱の証ではなく、生命の戦いの歌でした。その一呼吸ごとに、「陽の光を感じられる限り、最後まで戦い抜く価値がある」と叫んでいるようでした。ありがとう、タンタン。あなたはその生涯を通じて、私たちに「生命の尊厳は長さではなく、その強さで人々を照らすことにある」と教えてくれました。

獣医師 成 彦曦 (右)



タンタンと過ごした時間は短いものですが、最も印象的なのは、長期間の病気の苦しみと治療の痛みの中でも、彼女が飼育員や医療スタッフへの信頼を決して失わず、力強く治療に協力し続け、決して諦めなかった姿です。タンタンを愛してくれた皆様、人生で逆境に遭遇したときも、必ず自分を大切に、希望を持ち続けてください。

飼育員 王 平峰 (左)

私があなただけの治療を任せられた時、心に浮かんだのはただ一つの思いでした。「絶対に助ける」と。初めてあなたに会った時、あなたが弱々しく横たわっていたその姿を見た瞬間は、ただ心が痛むだけでした。しかし、あなたが病氣と真正面から向き合っている姿を見た時、私の心は感動とそして尊敬の気持ちで一杯になりました。日本で過ごした20年以上、あなたは私たちの宝物であっていただけではなく、たくさんの方々の国民の宝物ともなりました。病氣でなければ、予定通り故郷に戻る事ができたはずですが、病魔は容赦なく、最終的にあなたを私たちから奪ってしまいました。あなたの人生の最後の時間、多くの人が日夜あなたを見守り、限りない思いを注いでくれました。あなたが旅立った後も、多くの人があなたが暮らしたこの場所に祝福を捧げてくれました。タンタン、命には終わりがあるが、愛は止まりません。あなたの強さは、私たちにパンダの病気の治療法をもっと探す勇気を与えました。また、あなたを心配してくれた皆様も、あなたの素晴らしさを永遠に覚えていることを願っています。

獣医師 何 鳴



愛しいタンタンへ。28歳という高齢で、私に付き添われた3か月間、私のパンダ獣医師人生に生命についての授業をしてくれたことに感謝します。言葉を交わさなくても、毎日あなたが平穏な呼吸をし、自ら診療の姿勢を調整するたびに、生命の最も純粋な強さが表現されていました。私は神戸に行く前から、心不全患者の介護の厳しさは承知していましたが、あなたは高度に協力的で、もともと困難だった腹水管理、心電図モニタリング、腹部静脈採血検査などを可能にしてくれました。この種を超えた信頼に心から感動しています。その長い治療の中、あなたは終始一貫して悠然と、私は「優雅な闘い」とは何であるか、老衰と痛みは、魂の光を消し去ることはできない、ということを教えてくれました。

「タンタン」追悼事業

みんなのありがとうをタンタンに



「タンタン」に感謝の意を込めて、2024年5月10日に追悼式を行いました。

中国駐大阪総領事をはじめ、タンタンの飼育や治療、研究に尽力して下さった関係者の方々を来賓として迎え、また、地域の代表者や支援者の皆様、そして公募により選ばれた一般参列者約100名も参列しました。

メモリアルムービーの上映や、飼育員たちからの心温まるメッセージ、子どもたちからの歌などが贈られ、タンタンへの愛情が改めて感じられたひとときとなりました。

神戸市内各地をタンタン一色に



メリケンパーク光の演出



メモリアルムービーの放映



バナーの掲出

「タンタン」の誕生日にあわせ、2024年9月16日に、市内各地で追悼事業を実施しました。

メリケンパークやハーバーランドでのライトアップ、中心街でのメモリアルムービーの放映、地元商店街でのバナー等の掲出など、感謝を込めて様々なイベントを行いました。

市内全体がタンタンに包まれた一日となりました。

さいごに

タンタンは、2000年に来園し、多くの方々に愛されながら、長年にわたり王子動物園で過ごしてきました。また、日中共同飼育繁殖研究に貢献するとともに、震災で傷ついた神戸市民に癒しや勇気を与えてくれる復興のシンボルであり続けました。

2021年には、タンタンに心臓疾患が見つかり、治療に取り組むなか、一般観覧を中止していながらも、毎日非常に多くの方々から、SNS等を通じ励ましの声をいただきました。

タンタンが当園で過ごした日々は、たくさんの方々にとってかけがえのない思い出となっています。そんな想いを大切にするため、いつでもタンタンを振り返られるよう、本号を制作いたしました。

制作にご協力いただいた関係者ならびに、タンタンへ深い愛情を注ぎ続けて下さった皆様に感謝申し上げます。本号を通じて、タンタンの存在がこれからも多くの方々の心の中で生き続けることを願っています。



神戸市立王子動物園

〒657-0838 兵庫県神戸市灘区王子町3丁目
TEL 078-861-5624 <https://www.kobe-ojizoo.jp/>
発行日 2025年3月31日



HP



X



YouTube